

## 社会福祉士実習前における大学と高齢者領域実習施設との協働について —ケアの質向上に求められる実習指導者（生活相談員）とケアワーカーとの協働—

○ 埼玉県立大学 嵩末 憲子 (03901)

小川 孔美 (埼玉県立大学・04527)

キーワード3つ：ケアワーカーとの協働 高齢者領域 ソーシャルワーカーの役割

### 1. 研究目的

本学では、社会福祉士養成課程における相談援助実習（以下、社会福祉士実習）は2段階で構成され、第1段階は2年次後期に3週間（開設当時：介護実習として2週間）、第2段階は3年次前期にて実施している。また、2006年から、4年次には地域と連携・協働して取り組む5学科（看護・理学・作業・社会福祉・健康開発）合同のインタープロフェSSIONAL演習（以下、IP演習）もあることから、新カリキュラム以前より、第1段階の社会福祉士実習時に、アセスメントシートやプロセスレコードの作成を指導してきた。

高齢者領域の入所施設における社会福祉士実習においては、ケアワーク実習の意義や位置付けが課題となってきたが、本学が依頼している実習施設においても同様であった。第1段階の実習では、実習指導者と学生、担当教員が協働して実習課題を明らかにし、プログラムを組むことが困難であることは否めない。とくに、ケアの質向上や権利擁護に関するソーシャルワーカーとケアワーカーの協働については、学生からの要望は高いが、実習施設においてもそのあり方が問われており、実習中の実習指導者やケアワーカーの学生に対する何気ない言動によって、学生が社会福祉分野への志望を断念した経緯が明らかになり、実習全体の評価に影響する事態も見受けられた。大学側より社会福祉士実習プログラムを依頼・調整を試みてきたが、それを実習施設が受け入れ難い場合には、実習前に解決を図るべく努力することが求められる。

そこで本研究では、上記のような課題について本学の特徴をふまえ、高齢者領域における社会福祉士実習の第1段階の実習前に、報告者ら（介護福祉概論・高齢者福祉論担当）が実習指導者とケアワーカー向けにおこなった取り組みから、大学と担当教員及び実習施設と実習指導者やとの協働のあり方について検討したい。

### 2. 研究の視点および方法

- 1) 報告者2名の実習指導内容を振り返り、特別養護老人ホームでの生活相談員とケアワーカーとの協働の課題が、社会福祉士実習教育に与える悪影響を確認した。
- 2) 実習先に社会福祉士養成課程の実習内容を依頼・調整する以外に、現場でも意義のある方策として、実習指導者へのヒアリング結果（社会福祉士の価値や知識・技術や協働の現状と課題）を整理した。
- 3) 前項をふまえ、生活相談員とケアワーカーの協働の研修プログラムを構築し、実習指

導者らが社会福祉士の役割を共有できるよう試みた。

- 4) 実習中の実習指導者の言動を参与観察し、さらに実習中・後に、研修の影響や実習指導についてヒアリング調査を行った。

### 3. 倫理的配慮

個別の事例については取り扱わない。研究目的を説明し、研修を途中で断念しても実習などには影響しないことを確認する。また、教育研究以外の目的で、本データを使用しないことを約束した。

### 4. 研究結果

#### 1) 社会福祉士実習教育への影響

実習先の経年的変化から、ケアの質は実習指導者である生活相談員の実践力に依ることが多く、実習生への影響としては、実習のモチベーション低下や社会福祉士への疑念、理想と現実のギャップ、高齢者領域や福祉職への断念等が確認された。

#### 2) 研修前ヒアリング結果

社会福祉士実習や IP 演習等の評価が良い実習先であっても、ケアの質向上に向けた生活相談員とケアワーカーとの協働に課題があり、解決が困難であることが共有された。

#### 3) 実習指導者（生活相談員）と核になるケアワーカーへの研修

学生への講義内容と実習指導が矛盾しない研修テーマにて、双方の相互理解（共有すべき価値観、社会福祉士に求められる知識・技術など）が深まるようなプログラムを設定し、試行した。

#### 4) 実習中（観察も含む）・実習後のヒアリング結果

- ・実習中は、研修テーマに関する学生の質問に対して、生活相談員として大切にしなければならぬ価値観や倫理、ケアの質を向上させるべく必要な知識等について実習指導できていた。
- ・社会福祉士に求められる能力として、利用者の立場から代弁できること、環境であるケアワーカーと協働できること、新たなケア態勢を創造することなどが確認された。

### 5. 考察

ソーシャルワーカーがケアの質向上に対峙する場面において、学生にジレンマを伝えながらも、利用者の立場から適切に対処することは、学生が期待する実習教育のプログラムとなることが示唆された。社会福祉士実習の第1段階としては、習得してほしい内容を講義で教授し、実習指導(事前)にて学生と共に実習課題やプログラムを検討するだけでなく、実習施設が、実習課題を受け入れやすくなるよう大学と実習先との協働が求められている。